

陳 情 文 書 表

受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名	陳情第146号（7. 9. 9） 公園倒木事故に関する神戸市の管理体制改善及び被害者への誠実な対応を求める陳情
陳 情 の 要 旨	事故が「予測不能の自然災害」ではなく、管理・点検体制の不備によるものであったことを鑑み、再発防止のため、全ての公園樹木の幹の内部診断（空洞化・腐朽菌の確認）、根の健全度確認（腐食、浮き上がり、土壌環境）、樹木の傾き測定、周辺土壌や排水状況の調査などを行い、樹木医や専門業者による定期診断を導入し、客観的かつ専門的な点検を実施するとともに、点検の時期、担当者、項目、診断内容を詳細に記録し、市民に公開するなど、説明責任を果たすこと。 その際には、単なる「点検済み」報告ではなく、具体的な内容を透明化し、危険と判断された樹木に対し、伐採、補強、立入制限を迅速に実施すること。
陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市垂水区 末武 達三
送 付 委 員 会	決算特別委員会

2025 年 9 月 9 日

神戸市会議長 宛て

(住所) 神戸市垂水区

(氏名) 末武 達三
(電話番号)



公園倒木事故に関する神戸市の管理体制改善
及び被害者への誠実な対応について求める陳情

【陳情趣旨】

2023 年 3 月 13 日、神戸市垂水区名谷町の高曽公園において、幹内部の腐朽が進んでいた高さ約 5 メートルの木が倒れる事故が発生し、ボール遊びをしていた当時 13 歳だった私の息子が下敷きとなり、腰の骨を折る重傷となり、若くして、今後一生続く後遺症を背負うことになりました。

被害者となった私の息子は、腰椎骨折による後遺症により、夢であったプロ野球選手の道を断念せざるを得ませんでした。突如として、子どもの未来が大きく変わってしまったことに、家族全員が耐え難い苦しみを抱えています。

事故の原因は、ヤマモモの木の幹内部の腐朽が相当進行していたにもかかわらず、管理者である神戸市が定期点検等で十分チェックしておらず、その危険性が把握されていなかったことにあります。専門家の指摘によれば、樹木は既に半枯れ状態であり、適切な点検が行われていれば伐採・更新が検討されるべき状態だったとのことでした。

神戸市の管理・点検体制の不備により危険が未然に防がれなかった「人災」であるにもかかわらず、事故後の神戸市の対応は不誠実であり、被害者家族にさらなる精神的苦痛を与えるものでした。

具体的には、「市側の提案が受け入れられないなら裁判だ」と発言するなど、被害者を追い詰める対応が行われました。私達は、まるで加害者のように扱われたと感じ、追い打ちをかけられました。行政は市民を守る立場であるべきにもかかわらず、被害者家族に心理的圧力を与える対応は到底容認できません。

市民の安全を守るべき神戸市が、責任を明確に認め、被害者家族に誠実に向き合い、再発防止策を徹底することを強く求めます。二度と同じ悲劇が繰り返されないよう、以下の事項について陳情いたします。

【陳情事項】

現在、議会において 2024 年の決算の審査が行われているところ、下記の事項を陳情します。

事故が「予測不能の自然災害」ではなく、管理・点検体制の不備によるものであったことを鑑み、再発防止のため、全ての公園樹木の幹の内部診断(空洞化・腐朽菌の確認)、根の健全度確認(腐食、浮き上がり、土壌環境)、樹木の傾き測定、周辺土壌や排水状況の調査などを行い、樹木医や専門業者による定期診断を導入し、客観的かつ専門的な点検を実施するとともに、点検の時期、担当者、項目、診断内容を詳細に記録し、市民に公開するなど、説明責任を果たすこと。

その際には、単なる「点検済み」報告ではなく、具体的な内容を透明化し、危険と判断された樹木に対し、伐採、補強、立入制限を迅速に実施すること。

以上